

中日友好観光交流月 in 江蘇



運河と湖の町、蘇州の景観(金鷄湖とビル群)



上海蟹

「日中の絆が深まるよう、陽澄湖の上海蟹を食べましょう」

南通は江蘇省南東部、長江の河口に位置する人口約730万人の都市。長江の北岸に位置し、南隣の南京とは車で約3時間、上海とは約2時間の距離にある。古くから繊維産業が盛んで、日本企業の出出も多い。日本とは豊橋市(愛知県)、和泉市(大阪府)と友好都市締結をしている。南通では9月10日、「中日友好観光交流月 in 江蘇」の開幕式(オープニングセレモニー)が行われる。会場は南通東国際空港。オープニングのアトラクションや、航空便で訪れた客への記念品プレゼント、南通市政府と江蘇省観光局、日本からの観光客の代表によるあいさつに続き、

オープニングセレモニーでイベントの開始を宣言



狼山風景区



中国国家観光局駐日本代表処

9、10月、4都市でスペシャルイベント



江蘇省の省都南京では10月14日、大報恩寺遺跡公園が「一城一塔一河・日中友好博愛の旅」と題するイベントが行われる。近代民主主義の祖、孫文(孫中山)が唱えた「博愛主義」の遺構が残る南京。学、書道や切り紙などの伝統文化体験、漢服の着付け体験といった、地元文化を肌で感じられるイベントを用意している。

「一城一塔一河・日中友好博愛の旅」

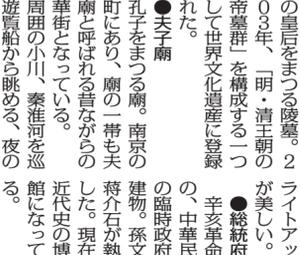


大報恩寺遺跡公園

大報恩寺遺跡公園は、2008年、前年に始まった大報恩寺遺跡公園の再建工事と考古学発掘に見つかった。中でも注目寺院。

を集めたのが二重の鉄箱に入った宝塔表面に「仏頂尊」など書かれた宝塔に「大報恩寺遺跡公園」として世界文化遺産に登録された。南京の歴史を大発見となった。敷地内には明の時代に建てられ、「世界七奇観」といわれた「大報恩寺塔」を再建している。

その皇位をまつる陵墓。2ライトアップが美しい。003年、「明・清王朝の皇帝墓群」を構成する一つ。辛亥革命後の辛辛革命後の臨時政府の南京の孫文や蒋介石が執務した。現在は繁華街となっている。周田の川、秦淮河を巡る。遊覧船から眺める、夜の。



牛首山

(457~464年)創建。唐代に鑑真が住職をしたこと有名。688年、揚州で生まれた鑑真は14歳の時に出家。洛陽、長安(西安)で修行を積み、僧侶が守るべき戒律を研究。大明寺の住職として務め、和上ゆかりの場所として有鑑真の偉業を振り返る。この地に渡った2人の僧侶から日本に仏教の戒律を伝えてほしいと懇願され、日本に渡ることを決意。5回失敗し、この間面目を失明

揚州

揚州は省都南京の東におよそ100km。中国の大江、長江を臨む都市で、人を結ぶ。寺の境内にある鑑真堂の戒律を日本に伝えた鑑真院「鑑真東征、心と縁を結ぶ」を研究。大明寺の住職として務め、和上ゆかりの場所として有鑑真の偉業を振り返る。この地に渡った2人の僧侶から日本に仏教の戒律を伝えてほしいと懇願され、日本に渡ることを決意。5回失敗し、この間面目を失明



瘦西湖

蘇州

「東洋のベニス」の異名を持つ蘇州では、「日中の絆が深まるよう、陽澄湖の上海蟹を食べましょう」と題するイベントを10月28、29の両日、陽澄湖半島観光リゾート区などで行う。市内中心に近い陽澄湖は上海蟹の一大産地。ここでは、ここでとれる上海蟹は中国でとれるものの中でも最高級品とされる。28日は「特別蟹ショー」として、「蟹娘」が蟹一匹一匹を縛る作業をショー仕立てで見せてくれる。また、専用の道具「蟹八件」を用いた「蟹光スポット」の鑑賞も行。

南通

約5万平方メートルの広大な敷地に中国、東洋、西の三つのエリアを展開。自然と造られた徐泰時の個人庭園として造園され、清の同治年間スタイルを生み出している。留園、明代の方壺年間、高昇は多彩な建築物と奇石を多く配しているのが特徴。として手に入れ、改装された。唐の時代に呉越公孫王の元時代、禅寺の高僧、天如律師惟則の弟子が禪師、拙政園、留園、滄浪亭、獅子林、獅子の形に似た石が産産に登録されている。

「中日友好観光月 in 江蘇」もよい状態で保存されている。高約107mの狼山を中心、五つの山で構成する風景区。市街地と長江の景色を一望する。蘇州市内は大小の運河が縦横無尽に張り巡らされ、水路として利用されるなど人々の生活に溶け込んでいる。

鑑真東征、心と縁を結ぶ」を研究。大明寺の住職として務め、和上ゆかりの場所として有鑑真の偉業を振り返る。この地に渡った2人の僧侶から日本に仏教の戒律を伝えてほしいと懇願され、日本に渡ることを決意。5回失敗し、この間面目を失明